

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年3月24日(日)

活動隊員:登谷美知子

1. 活動期間

2024年3月20日(水) 12時 ~ 2024年3月23日(土) 11時

2. 活動場所

避難所:珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

仮設住宅:珠洲市立正院小中学校(石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

3. 石川県珠洲市の被害状況(3月15日 14:00時点 石川県庁情報)

人的被害 死者:103人 うち災害関連死:6人 負傷者:重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:8,676棟 非住家被害:3,690棟

4. 避難所の状況

【避難者数】

3月20日:43人(3名入所)

3月21日:41人(3名退所、1名入所)

3月22日:40人(1名退所、0名入所)*3/15-21の期間で不在者1名も避難者数に入っていましたが、1週間経過したため削除となりました。

【避難所運営】

3月末をもって、調理ボランティア(大谷町)行政(千葉県)の支援が終了となる。4月からの避難所運営体制の見直しが必要であり、避難所全体ミーティングにて状況を説明された。今後は、避難所利用者にも役割分担し運営に協力と理解を求めた。3月末までに役割分担を決定していく予定。

【避難所の生活状況】

食事については、朝、昼食はレトルト食品が主となる。一部汁物、惣菜などは学校給食担当2名の方が調理して下さることになった(平日のみ)。夕食は3月20日から弁当の配給となった。レトルト食品の支給については、適当に配給またはメニューオーダー可能か確認中である。実際に支給されるのも28日か29日とのこと。それまでは、ランチルームにある食材で調理する。レトルト食品収納のストッカーと、電子レンジ2台あるので、各自で調理、片づけを行うことになった。

5. 仮設住宅の状況

一期工事で40戸、二期工事で36戸建設され、全個数は76戸が完成しているが、在室不明の方が3名いる。集会場がある以外は、外観、周囲は殺風景である。砂利道は雨天時には水たまりが著明となっている所もあり、スロープ手前まで貯留している個所もある。車が敷地内駐車または敷地内砂

利道を通るため歩行に注意が必要。部屋から出てくるときに車中から見えにくく運転ともに飛び出し注意である。(写真最下)

6. 支援活動の実際

【避難所支援】

保健師チームによる健康相談は、毎週水曜日の週 1 回となった。今後については、保健師より訪問頻度の調整を相談された。避難所状況についてお伝えしたが、日本災害看護学会と合わせどのように支援を行っていくか、生活サポート部会本部と調整していただくようにお伝えした。

70 代男性については、自力での生活は可能だが清潔面での問題あり、避難所内でのクレームも聞かれている。親戚の方が時々様子を見に来られるので状況をお伝えしたところ、生活サポートを引き受けてくださった。3月14日より入浴されていないことも判明したため、23日に入浴に連れて行ってくださり今後洗濯なども定期的に行う予定となった。また、DVT 予防の弾性ストッキングは継続して着用し、履きなおしされている。毎日血圧測定を希望され救護所まで来られる。内服を時々忘れるため声掛けが必要である。

2名の在宅避難者訪問を行った。1名は震災後避難所に20日間滞在したのち一部損壊の自宅に戻り現在に至っている。77歳女性、独居であるが、同じ大谷地区に娘婿の実家があり、入浴はそちらで行っている。電気のみ使用可能。自家用車の運転はできるため、現在のところ日常生活での援助は見守り支援で対応可能。もう1名は、一旦2次避難され戻ってこられた74歳女性。長男夫婦と同居。自宅は全壊したため、工場の一角を修繕し生活している。心臓の持病があるが通院可能。長男との関係性も良好である。以上2名の方は見守りまたは必要時巡回相談で対応可能である。

【仮設住宅支援】

仮設住宅入居者の状況把握のため、全戸訪問を引き続き実施した。巡回でお会いできた80代男性(独居)は、自宅が全壊し金沢の娘宅に避難していたが、3月20日に応急仮設住宅に入居された。備え付けのTVの設定が行えず、隣に入居している方が同じ町内で顔見知りの方であったので、設定をしてもらったとのこと。(ミーティングにて保健福祉調整本部に確認したところ、セットアップまではしているはず、という話であったが...)その他、インターフォンの使用方法が分からず、子機の点滅が不快で気になって眠りにくいとの話が聞かれた。確認させていただいたところ、不在時の訪問記録(録画)を知らせる機能であった。消去方法を説明したが次回訪問時に再確認が必要と思われる。IHの使用は可能で、調理はできている。収納庫をペットハウスにしており、豆柴犬(名前:まめ助)と暮らしている。自家用車あり(軽トラ)運転は可能である。応急仮設住宅には高齢者や要配慮者を優先として入居を勧めていることもあり、電化製品の使用状況など日常生活、暮らしへの見守り支援が引き続き必要である。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【避難所支援】

3月第4週には小中学生の避難者は運営本部長のご家族を除き全員が退所予定である。避難所内では、地域ぐるみで子どもたちの面倒をみている。消灯を過ぎてもTVや雑談などしばらく続いても苦情は聞かれていない。前任者の子どもたちの食生活を改善するための取り組みも継続されてい

る。避難所人数の減少と共に支援者も減っていく中、利用者全体での運営が求められる。一時的に帰宅される方の受け入れもあり、避難所としての終息は今のところは未定である。地域性もあるが、自宅再建や、仮設住宅設営もいつになるか分からない状況下では、在宅避難者 避難所 一時帰宅者との関係性が繋がっている分、避難所自体の終息が難しい。健康相談も実質的なものではなく、ほぼ見守り状態である。今後は地域につなげていくことが必要であり、保健師との連携を強め情報を共有し必要な支援につなげていければと思う。

【仮設住宅支援】

正院の仮設住宅は、珠洲市内における新たなコミュニティ形成のモデルケースとなっていく予定である。現時点では、仕事など日中不在となっている仮設住宅が多く、調査を受けていない方もいためニーズ調査継続が必要である。今後は、コミュニティの形成支援を踏まえ行政を交えて組織運営など構築していく必要がある。

参考：現地の様子



正院町 応急仮設住宅
雨天時の様子
(撮影：2024/3/21)